

その選択が、重大な影響を及ぼす。特許出願すべきなのか？営業秘密としてブラックボックス化してしまうべきなのか？
複数の観点を組み合わせて、総合的に判断するために！



【技術漏洩対策&ノウハウ管理セミナー】 自社技術のブラックボックス化および特許出願の分岐点と選択指針

～ その技術 営業秘密にすべきか特許出願すべきか ～

日時	2015年1月28日(水) 13:00～16:30	会場	東京・大田区蒲田 大田区産業プラザ(PIO) 1F A+B会議室
受講料	43,200円 → 講師紹介割引 21,600円 (通常受講料の半額) (本体20,000円+税1,600円)		資料付

講師

エース特許事務所 共同代表、弁理士・技術士(金属部門) 高橋 政治 氏

紹介

1997年早稲田大学大学院理工学研究科資源及び材料工学専攻修了。同年、新日本製鐵株式会社入社。製鉄所にて技術開発等に従事する。2003年特許事務所に入所。2004年技術士登録(金属部門)。2009年弁理士登録。2010年エース特許事務所の共同代表に就任。現在は国内・国外の特許業務や、技術的営業秘密(ノウハウ)のブラックボックス化に関する講演活動、社内研修会、コンサルティング等の業務に従事する。著書に「技術者・研究者のための特許の知識と実務」(秀和システム、2011年8月出版)等がある。

趣旨

製造方法の発明は他社の侵害行為を見つけ難いため、特許出願せずに技術的な営業秘密としてブラックボックス化(ノウハウ秘匿)するべきでしょうか？一方で、物の発明は全て特許出願するべきでしょうか？例えば、自社がその市場において先発であれば、物の発明であってもノウハウとして秘匿したほうが良い場合があります。逆に、自社がその市場において後発であれば、製造方法の発明であっても特許出願し、特許権を取得して、先発の会社に対抗するための武器を持つべきとも考えられます。また、例えば、その発明がコア技術であるか、周辺技術であるかによっても、特許出願すべきか否かの選択に影響するでしょう。

技術開発/研究開発の結果である発明を特許出願するか、営業秘密としてブラックボックス化(ノウハウ秘匿)するかの選択は、経営戦略に直結し、適切な選択を行えば自社に莫大な利益をもたらす可能性があります。逆に、その選択を間違えば、単に競合他社へ自社技術を公開してしまうだけになりかねません。この選択を適切に行うためには、複数の観点を組み合わせて、総合的に判断するための自社独自の選択基準を構築する必要があります。また、ノウハウ秘匿と特許出願の選択を適切に行えば、結果的に無駄な特許出願を排除できます。特許出願件数を1500件/年→800件/年に抑制できた企業もあります。

本セミナーでは、技術的な営業秘密としてブラックボックス化(ノウハウ秘匿)するか、特許出願するかを選択基準を解説します。また、その選択を適切に行うためのシステム(社内体制)を社内に構築することが極めて重要ですので、そのポイントを解説します。さらに、ノウハウが漏洩した場合の救済措置(不正競争防止法)や先使用権についても解説します。

プログラム

- 技術的な営業秘密としてブラックボックス化するか、それとも特許出願するか？その判断基準と、判断する体制を社内に構築する方法
 - なぜ、ブラックボックス化(ノウハウ秘匿)が必要なのか？
 - 技術開発・研究開発の成果の扱い方
 - ノウハウ・特許・公知化の判断基準(特許性判断方法、実案・意匠利用法も含む)
 - 判断体制の構築方法
- ブラックボックス化した営業秘密(ノウハウ)をどのように管理すれば秘密にできるか
 - 技術漏洩の実態
 - どのように管理すれば漏洩を防止できるのか
 - ノウハウ活用における注意点
- 技術的な営業秘密(ノウハウ)が漏洩した場合の救済措置(不競法の解説等)
 - 最近の事例
 - どのような場合に不競法によって救済されるのか
 - 救済を阻むもの
- 技術的な営業秘密(ノウハウ)の自社実施が他社特許を侵害した場合への備え(先使用権の理論と実際・課題等)
 - 先使用権とは何か
 - 先使用権の理論
 - 先使用権を立証するための資料
 - 事例

□質疑応答・名刺交換口

※講師、プログラムの内容が変更になる場合もございます。最新の情報はHPIにてご確認ください。※申込用紙が複数枚必要な場合等は、本用紙をコピーしてお使いください。

セミナー申込用紙

B150168 (特許性判断)

講師紹介割引

DM

会社名 団体名			
部署			
役職			〒
ふりがな			住所
氏名			
TEL		FAX	
E-mail	※申込みにする連絡に使用するため、可能な限りご記入ください。		

※太枠の中をご記入下さい。※□にチェックをご記入ください。
※E-mailアドレスまたはFAX番号を必ずご記入下さい。

<p>今後のご案内</p> <p><input type="checkbox"/> E-mail希望・登録済み</p> <p><input type="checkbox"/> 郵送希望・登録済み</p> <p><input type="checkbox"/> 希望しない</p>
<p>お支払方法</p> <p><input type="checkbox"/> 銀行振込 (振込予定日 月 日)</p> <p><input type="checkbox"/> 当日現金払い</p>
<p>通信欄</p>

●受講料について
特別割引用紙のため、他の割引との併用はできません。
●お申込みについて
申込用紙に必要事項をご記入のうえ、FAXでお申込みください。
また、当社ホームページからでもお申込みいただけます。
お申込みを確認次第、請求書・受講券・会場案内図をお送りします。
●お支払いについて
受講料は、銀行振込(原則として開催日まで)、もしくは当日現金にてお支払いください。
銀行振込の場合、原則として領収書の発行はいたしません。
振込手数料はお客様がご負担ください。

●個人情報の取り扱いについて
ご記入いただいた個人情報は、事務連絡・発送の他、情報案内等に使用いたします。
詳しくはホームページをご覧ください。
※ご注意※
●お申込み後はキャンセルできません。
●都合が悪くなった場合は代理の方がご出席ください。
●参加者が最少催行人数に達しない場合など、事情により中止になる場合がございます。



サイエンス & テクノロジー

研究・技術・事業開発のためのセミナー/書籍
サイエンス&テクノロジー株式会社
TEL 03-5733-4188 FAX 03-5733-4187
〒105-0013
東京都港区浜松町1-2-12 浜松町F-1ビル7F
http://www.science-t.com